

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジントヨタガクエン 学校法人豊田学園							
フリガナ大学の名称	ギフホケンダイガク 岐阜保健大学 (Gifu University of Health Sciences)							
大学本部の位置	岐阜市東鶉2丁目92番地							
大学の目的	岐阜保健大学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、保健医療に関する専門の理論及び技術を深く教授研究し、並びに豊かな人間性、高潔な人格と専門的能力をかね備えた資質の高い人材を育成することにより、地域の保健医療の向上と福祉の増進に寄与し、その教育研究の成果により、広く地域と社会の発展に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	生命の尊厳を基盤とした倫理観と自己研鑽を継続できる高い資質を持ち、人々の健康と暮らしを支援するための深い専門的な知識と技術ならびに実践力を備えた理学療法士と作業療法士を養成する。またその養成を通じて、広く地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	リハビリテーション学部 [Faculty of Rehabilitation] 理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	年	人	年次人	人		年月 第年次	
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	60	-	240	学士(リハビリテーション学)	令和3年4月 第1年次	岐阜市東鶉2丁目92番地
	計	4	30	-	120	学士(リハビリテーション学)	令和3年4月 第1年次	岐阜市東鶉2丁目92番地
			90	-	360			
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)	岐阜保健大学 短期大学部リハビリテーション学科(廃止)(90) 令和3年4月学生募集停止 大学院看護学研究科看護学専攻修士課程(13)(令和2年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	リハビリテーション学部理学療法学科	67科目	31科目	5科目	103科目	124単位		
リハビリテーション学部作業療法学科	70科目	29科目	5科目	104科目	124単位			

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	教員
			教授	准教授	講師	助教	計		
	人	人	人	人	人	人	人	人	
新設	リハビリテーション学部 理学療法学科		5 (5)	0 (0)	3 (1)	8 (7)	16 (13)	0 (0)	28 (19)
	作業療法学科		4 (3)	1 (0)	3 (3)	1 (1)	9 (7)	0 (0)	30 (18)
	計		9 (8)	1 (0)	6 (4)	9 (8)	25 (20)	0 (0)	- (-)
既設	看護学部 看護学科		12 (12)	5 (5)	6 (6)	4 (4)	27 (27)	11 (11)	30 (16)
	計		12 (12)	5 (5)	6 (6)	4 (4)	27 (27)	11 (11)	- (-)
合計			21 (20)	6 (5)	12 (10)	13 (12)	52 (47)	11 (11)	- (-)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		10 (10)		4 (4)		14 (14)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	その他の職員		0 (0)		1 (1)		1 (1)		
計			11 (11)		5 (5)		16 (16)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	8,397.26㎡	0.00㎡		0.00㎡		8,397.26㎡		
	運動場用地	1,648.00㎡	0.00㎡		0.00㎡		1,648.00㎡		
	小計	10,045.26㎡	0.00㎡		0.00㎡		10,045.26㎡		
	その他	8,171.00㎡	0.00㎡		0.00㎡		8,171.00㎡		
	合計	18,216.26㎡	0.00㎡		0.00㎡		18,216.26㎡		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		0.00㎡ (0.00㎡)	11,992.08㎡ (11,992.08㎡)		0.00㎡ (0.00㎡)		11,992.08㎡ (11,992.08㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	19室	5室	5室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称 リハビリテーション学部			室数 25室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 (うち外国書) 冊	学術雑誌 (うち外国書) 種	電子ジャーナル (うち外国書) 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は学部全体の数 大学全体では、 図書 13,594冊 (うち外国書234冊) 学術雑誌 69種 (うち外国書20種) 電子ジャーナル7種 (うち外国書7種) 視聴覚資料384点 機械器具5,445点 標本39点	
	リハビリテーション学部	5,265 [80] (5,265 [80])	31 [9] (31 [9])	7 [7] (7 [7])	104 (104)	2,793 (2,793)	39 (39)		
	計	5,265 [80] (5,265 [80])	31 [9] (31 [9])	7 [7] (7 [7])	104 (104)	2,793 (2,793)	39 (39)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数			
		573.1㎡		204席		20,000冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		406.7㎡		テニスコート、バスケットボールコート					

経費の積及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費は教授・准教授が年額40万円、講師・助教が30万円。	
		教員1人当り研究費等		354千円	354千円	354千円	354千円	-	-		
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	-	-		
		図書購入費	2,949千円	612千円	612千円	612千円	612千円	-	-		
		設備購入費	26,752千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,650千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金，資産運用収入，雑収入等								
既設大学等の状況	大学の名称		岐阜保健大学								入学定員超過率は、令和2年度入学者数（暫定値）を基準とした平均
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学部看護学科		年	人	年次人	人	学士（看護学）	1.11	平成31年度	岐阜市東鶉2丁目92番地	
			4	80	-	320					
	大学の名称		岐阜保健大学短期大学部								平成31年度より学生募集停止（看護学科） 入学定員超過率は、令和2年度入学者数（暫定値）を基準とした平均
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	看護学科		年	人	年次人	人	短期大学士（看護学）	-	平成19年度	岐阜市東鶉2丁目92番地	
	リハビリテーション学科		3	-	-	-	-	0.71	平成21年度	同上	
	理学療法学専攻		3	90	-	270	短期大学士（理学療法学）	0.77	平成21年度	同上	
	作業療法学専攻		3	60	-	180	短期大学士（作業療法学）	0.65	平成22年度	同上	
作業療法学専攻		3	30	-	90	短期大学士（作業療法学）					
附属施設の概要		名称：岐阜保健大学研究センター 目的：看護及びリハビリテーションの研究 所在地：岐阜市東鶉2丁目92番地 設置年月：平成31年4月 規模等：197㎡									

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部理学療法学科)

科 区	目 分	授業科目	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科学科目	科学的 基礎 の 思 盤	基礎ゼミナール	1前	1						3		3	8		兼1	
		情報科学	1前	1											兼1	
		基礎統計学	1前	1											兼1	
		問題解決法	1後		1										兼1	
	人間と生活	哲学	1前		1										兼1	
		英語	1前	1											兼3	
		英語	1後	1											兼3	
		英語	3前		1										兼1	
		英語	4後		1										兼1	
		中国語	2前		1										兼1	
中国語		2後		1										兼1		
教育学概論		1前	2											兼1		
現代の倫理		1前	2											兼1		
現代の教育		2後		2										兼1		
社会の 理 解	心理と行動	1後		2										兼1		
	健康と生活	1前		2										兼1		
	岐阜県の歴史と文化	2前		2							1			兼1		
	自己管理と社会規範	1前		2										兼1		
小計(22科目)			-	13	17	0	-	-	-	3	0	3	8	0	兼13	
	専門基礎科目	人体の 構造と機能 及び心 身の 発達	解剖学	1前	2											兼1
			解剖学演習	1後	1											兼1
			機能解剖学	1後	1											兼1
機能解剖学演習			2前	1											兼1	
生理学			1前	1						1						
生理学			1後	1						1						
生理学演習			2前	1						1						
運動学			1前	1						2						
運動学			1後	1						2						
運動学演習			2前	1								1			兼1 共同	
生命倫理		1前	1						1							
人間発達学		1後	1											兼1		
疾病と障害の 成り立ち 及び回復過程 の促進		病理学	1後	1											兼1	
		感染防御と安全管理	1後	1						1					兼1	
		保健統計学	3前	1											兼1	
		臨床心理学	2前	1											兼1	
	一般臨床医学	1後	1											兼1		
	呼吸循環器内科学	2前	1											兼1		
	神経内科学	2前	1											兼1		
	整形外科学	2前	1											兼1		
	精神医学	2前	1											兼1		
	小児科学	2前	1											兼1		
栄養代謝学	2後	1											兼1			
医療薬理学	2後	1											兼1			
診療画像診断学	3前	1											兼1			
救急医学	3前	1							1							
リハビリテーション工学	2後	1							1							
スポーツリハビリテーション概論	2前	1							1							
老年学	2前	1											兼1			
シ ョ ン の 理 念	リハビリテーション医学	1後	2											兼1		
	リハビリテーション概論	1前	2						2					兼1 共同		
	地域包括ケアシステム論	1後	1								1			兼1 共同		
	社会福祉概論	2前		1										兼1		
小計(33科目)			-	35	1	0	-	-	3	0	1	1	0	兼16		

専門科目 専門展開科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	1後	2						1					共同
		表面解剖学	1後	2						1					
		理学療法研究概論	3前	1						1					
		臨床運動学	2前	2						1	1				
		理学療法教育学	3前	1						1					
		理学療法管理学	3前	1						1					
	理学療法評価学	理学療法評価概論	1後	1						1					共同
		理学療法評価検査・測定論	2前	1							1				
		理学療法評価検査・測定論	2後	1							1				
		理学療法評価検査・測定演習	3前	1							1				
		理学療法評価演習	3前	2						1	1				
		理学療法治療学	運動療法学	2前	1						1			1	
	運動療法学演習		2後	1						1			1		
	物理療法学		2前	1									1		共同 共同
	物理療法学演習		2後	1									1		
	日常生活活動学		2前	1							1		1		共同 共同
	日常生活活動演習		2後	1						1			1		
	義肢装具学		2後	1						1					共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	義肢装具学演習		3前	1						1					
	リハビリテーション関連機器		3前	1						1					
	理学療法基礎治療技術論		2後	2						2					
	中枢神経系理学療法学		2後	2						1	1				
	中枢神経系理学療法演習		3前	1						1	1				
	運動器系理学療法学		2後	2						1	1				
運動器系理学療法演習	3前		1						1	1					
スポーツ障害理学療法学	2後		1						1						
スポーツ障害理学療法演習	3前		1						1						
発達障害理学療法学	2後		1						1		1				
発達障害理学療法演習	3前		1						1		1				
内部障害理学療法学	2後	2							1	1					
内部障害理学療法演習	3前	1							1	1					
老年期障害理学療法学	3前	1						1		1					
介護予防演習	4後	1						1		1					
地域理学療法	地域理学療法学	2前	2								1			共同 共同 共同 共同 兼2 共同	
	地域理学療法演習	4前	1								1	1			
	生活環境学	3後	1						2						
	レクリエーション実践	4後		1					1	1					
	多職種連携論	4後		1					1			1			
臨床実習	臨床実習（基礎）	1後	1						4		3	8		共同 共同 共同 共同 共同	
	臨床実習（地域）	2前	1						4		3	8			
	臨床実習（評価）	3後	3						4		3	8			
	臨床実習（応用）	3後	8						4		3	8			
	臨床実習（総合）	4前	8						4		3	8			
総合理学療法	実践力演習	1後	1						4		3	8			
	実践力演習	2後	1						4		3	8			
	実践力演習	3前	1						4		3	8			
	総合演習	4後	1						4		3	8			
	卒業研究	4通	2						4		3	7			
小計（48科目）		-	72	2	0	-	-	4	0	3	8	0	兼2	-	
合計（103科目）		-	120	20	0	-	-	5	0	3	8	0	兼28	-	
学位又は称号	学士（リハビリテーション学）	学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
4年以上在籍し、総合科学科目から必修科目13単位、専門基礎科目から必修科目35単位、専門展開科目から必修科目72単位の必修科目合計120単位以上に加え、地域理学療法学科目から選択科目1単位以上、その他の科目から3単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部作業療法学科)

区 分	授業科目	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
総合科学科目	基礎分野	科学的 基礎 的 思 考 の 基 盤	基礎ゼミナール	1前	1					2	1	3	1					
			情報科学	1前	1					1								
			基礎統計学	1前	1													
			問題解決法	1後		1										兼1		
			哲学	1前		1										兼1		
	基礎分野	人間と生活	社会の理 解	英語	1前	1												
				英語	1後	1												
				英語	3前		1											
				英語	4後		1											
				中国語	2前		1											
中国語				2後		1												
教育学概論				1前	2													
現代の倫理				1前	2													
現代の教育				2後		2												
心理と行動				1後		2												
基礎分野	社会の理 解	社会の理 解	健康と生活	1前		2												
			岐阜県の歴史と文化	2前		2												
			自己管理と社会規範	1前		2												
			チームワークとリーダーシップ	4後		1												
			人間関係論	1前	2													
基礎分野	社会の理 解	社会の理 解	コミュニケーション論	1後	1					1								
			健康と運動(体育)	1前	1													
			小計(22科目)	-	13	17	0	-	-	3	1	3	1	0	兼13	-		
			専門基礎科目	人間の 構造と機能 の発達 及び心 身の発達	人間の 構造と機能 の発達 及び心 身の発達	解剖学	1前	2					1					
						解剖学演習	1後	1					1					
機能解剖学	1後	1																
機能解剖学演習	2前	1								1								
生理学	1前	1																
生理学	1後	1																
生理学演習	2前	1																
運動学	1前	1									1							
運動学	1後	1									1							
運動学演習	2前	1																
生命倫理	1前	1																
人間発達学	1後	1																
専門基礎科目	疾病と障 害の成り 立ち及び 回復過程 の促進	疾病と障 害の成り 立ち及び 回復過程 の促進				病理学	1後	1										
						感染防御と安全管理	1後	1										
						保健統計学	3前	1						1				
			臨床心理学	2前	1													
			一般臨床医学	1後	1													
			呼吸循環器内科学	2前	1													
			神経内科学	2前	1													
			整形外科学	2前	1													
			精神医学	2前	1													
			小児科学	2前	1													
			栄養代謝学	2後	1													
			医療薬理学	2後	1													
			診療画像診断学	3前	1													
			救急医学	3前	1													
			リハビリテーション工学	2後	1													
スポーツリハビリテーション概論	2前	1																
専門基礎科目	保健福祉とリ ハビリテー ションの理 念	保健福祉とリ ハビリテー ションの理 念	リハビリテーション医学	1後	2													
			リハビリテーション概論	1前	2								1					
			地域包括ケアシステム論	1後	1								1					
			社会福祉概論	2前		1												
小計(33科目)	-	35	1	0	-	-	3	0	1	1	0	兼17	-					

専門科目 専門展開科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	1後	2					1		1			共同	
		表面解剖学	1後	1					1	1				共同	
		基礎作業学	1後	1					1			1		共同	
		作業療法理論	2前	1					1					共同	
		基礎作業学演習	2後	1					1		1			共同	
		作業療法研究概論	3前	1					1	1				共同	
		作業療法教育学	3前	1					1					共同	
		作業療法管理学	3前	1					1					共同	
	作業療法評価学	作業療法評価概論	1後	1					1		1	1		共同	
		作業療法評価検査・測定論	2前	1					1		1			共同	
		作業療法評価検査・測定論	2後	1					1		1	1		共同	
		作業療法評価検査・測定演習	3前	1					1		2			共同	
		作業療法評価演習	3前	2					1		1	1		共同	
	作業療法治療学	日常生活活動学	2前	1					1	1				共同	
		日常生活活動演習	2後	1						1				共同	
		義肢装具学	2後	1						1				共同	
		装具製作演習	3前	1						1				共同	
		リハビリテーション関連機器	3前	1					1					共同	
		作業と心身機能	2前		1				1			1		共同	
		作業と神経生理	2前		1						1			共同	
中枢神経系作業療法学		2後	2					1		1			共同		
中枢神経系作業療法学		2後	2					1		1			共同		
中枢神経系作業療法演習		3前	1					1		1			共同		
運動器系作業療法学		2後	1						1				兼1		
運動器系作業療法演習		3前	1						1				兼1		
内部障害作業療法学		2後	1									1	兼1		
内部障害作業療法演習		3前	1									1	兼1		
精神障害作業療法学		2後	1									1	兼1		
精神障害作業療法演習	3前	1									1	兼1			
発達障害作業療法学	2後	1					1			2		兼1			
発達障害作業療法演習	3前	1									2	兼1			
老年期障害作業療法学	2後	1									2	兼1			
ハンドセラピー学	2後	1						1				兼1			
生活行為向上マネジメント論	3後	1							1	1		兼1			
地域作業療法学	地域作業療法学	2前	2					1		1			共同		
	地域作業療法学演習	4前	1					1		1			共同		
	生活環境学	3後	1					1		1			共同		
	レクリエーション実践	4後		1						1	1		共同		
	多職種連携論	4後		1				1					兼2		
臨床実習	臨床実習（基礎）	1後	1					2	1	3	1		共同		
	臨床実習（地域）	2前	1					2	1	3	1		共同		
	臨床実習（評価）	3後	6					2	1	3	1		共同		
	臨床実習（応用）	3後	8					2	1	3	1		共同		
	臨床実習（総合）	4前	9					2	1	3	1		共同		
総合作業療法学	実践力演習	1後	1					1	1	3	1				
	実践力演習	2後	1					1	1	3	1				
	実践力演習	3前	1					1	1	3	1				
	総合演習	4後	1					1	1	3	1				
	卒業研究	4通	2					2	1	3	1				
小計（49科目）		-	71	4	0	-	-	2	1	3	1	0	兼3	-	
合計（104科目）		-	119	22	0	-	-	4	1	3	1	0	兼30	-	
学位又は称号	学士（リハビリテーション学）	学位又は学科の分野					保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
修了要件及び履修方法						授業期間等									
4年以上在籍し、総合科学科目から必修科目13単位、専門基礎科目から必修科目35単位、専門展開科目から必修科目71単位の必修科目合計119単位以上に加え、作業療法治療学から選択科目1単位以上、地域作業療法学科目から選択科目1単位以上、その他の科目から3単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科学科目	基礎分野 科学的思考の基盤	基礎ゼミナール	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。
		情報科学	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。
		基礎統計学	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。
		問題解決法	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿をどのように描いていくのが課題となっている。問題解決法とは、これからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立て、それに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどについて学生間の討議を中心に授業を進める。自分とは何か？という問いかけなしに自己実現や人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方や自己実現について学修しながら、学生が自らの目的を考察する手がかりとし、遭遇する問題とその対処法も思索する。
		哲学	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。リハビリテーションは実践の科学であると共に、リハビリテーションの対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「人間とは何か」を考察する。

人間と生活	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。	
	英語	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、「英語」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。	
	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療に特有の語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について、意見交換ができることを目指す。	
	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。また英語の文法や文型を復習しながら、心理的な教材の読み方の基本的な理解と研究文献に対する基礎的な読解力を育む。	
	中国語	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。毎回の授業の流れは、前回の復習 単語の読み方練習と文法の説明 基本本文と会話の文章を学ぶ 入れ替え練習と応用、の順に進め、多くの会話練習ができるような講義を目指す。	
	中国語	「中国語」の続編として、「中国語」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。授業の流れとしては、前回の講義で学んだ単語やセンテンスの聞き取りテスト 単語の読み方練習と文法の説明 基本本文と会話の文章を読む 入れ替え練習と応用、の順に進め、授業中は、多くの会話練習ができるような講義を目指す。	

教育学概論	<p>教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。人間にとっての教育の意味を説明することができること、教育学の基礎的な知識を身につけ、理解すること、現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることを講義の目的とする。</p>	
現代の倫理	<p>倫理学あるいは道徳哲学は、価値と規範にかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法について、具体的なテーマを考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるべきであるのか、その示唆を与えてくれる思考法を学修し、リハビリテーションの対象となる人の理解につなげることを目的とする。</p>	
現代の教育	<p>現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。現代の教育の多様なあり方を社会状況と合わせて理解することができること、現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができること、社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べることを講義の目的とする。</p>	
心理と行動	<p>心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることを目的とする。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。</p>	
健康と生活	<p>健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。</p>	
岐阜県の歴史と文化	<p>文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニングの手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。</p>	

	社会の理解	自己管理と社会規範	リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと 時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
		チームワークとリーダーシップ	人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできない。将来のリハビリテーションの職務においても重要な概念であり、チームの中で各メンバーはどうふるまうべきか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かす方法やアプローチについて、事例を交えて講義する。授業は学生による発表やグループディスカッションを中心に進める。		
		人間関係論	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら講義を展開する。		
		コミュニケーション論	リハビリテーションを含めた医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーションの場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とどのようにコミュニケーションすべきかについて、原則論と事例を示しながら解りやすく解説する。本講座では、講義だけでなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際のリハビリテーションの現場で役立つ人材の育成を図る。		
		健康と運動（体育）	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあつては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医科学と健康についての基礎知識を学修するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	人体を構成する運動器（骨・筋・靭帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。	
		解剖学演習	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靭帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。		

機能解剖学	四肢、体幹の骨、筋、神経について理解し、実践に役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動器官の形態を骨・関節・筋・神経の個々について学び、「ベクトル」と「トルク」の発生機構とそれによる機能を「力の合成、分解」と関係して結び付け、力学的構造を理解する。頭部、体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、リーチや把握、体重移動や歩行時の軸変化の構造について理解する。	
機能解剖学演習	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び、機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演習する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。	
生理学	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを一つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についても講義する。	
生理学	生理学の講義を補足し、人体の各機能のうち、特に、血液、循環、呼吸、消化器（口腔、胃、肝臓、小腸、大腸の機能）、排泄（腎臓、膀胱の機能）、代謝の基礎を学習する。また、各器官の関連性を学び、細胞の機能から個体の行動に至る正常な働きとそのメカニズムを理解する。そして、生理学（総論）で学修した神経系並びに内分泌機能を復習しながら、循環、呼吸、消化、排泄における神経性及び内分泌性調節機能の理解を深める。	
生理学演習	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学で得た知識をより深く理解するため、演習を通し、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。	
運動学	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。	共同
運動学	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的反応を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心とした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ学習されているのかについての理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。	共同
運動学演習	運動学演習では人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を基本として理解する必要がある。運動学で学修した知識を基礎として、電気生理学的、力学的、動作分析的に読み取り、考察することにより学修内容の理解を深める。運動・動作課題に伴う体の動きを目で確かめ、手で触れることを通じて運動と骨格筋の動きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈するプロセスを経験する。	

	生命倫理	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究利用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起るのか、ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのかなどの困難なテーマについて考察を深め、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもちたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。	
	人間発達学	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程や、一つ一つの減少のメカニズムを学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因で起こり(病因)、どのような変化を生じ(病変)、どのように推移し(経過)、最後にどうなるか(転帰)など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。病理学を総論と各論に分けて学び、総論は疾患を、退行性病変(萎縮、代謝障害、壊死)、循環障害、進行性病変(肥大、増生、再生、化生、創傷治癒、異物処理)、炎症、腫瘍、先天性異常の組み合わせとして理解し、各論で代表的な疾患を、総論で学んだ知識を基に体系化する。	
	感染防御と安全管理	感染に関わる病原体や非自己化した自己細胞に、身体は日々対処し健康を維持している。本講義では生体の防御機構の仕組みを学び、ヒトがどのように定常性を保っているのかを学ぶとともに、各種感染症の感染経路と病態について講義する。また、医療事故について、その背景にある医療職を取り巻く社会的環境と医療現場の現状について学ぶ。リハビリテーション部門で起こりやすい医療事故防止の為、安全管理の在り方、施設内感染における感染防護の必要性とその方法を講義する。	
	保健統計学	統計学とは、集積されたデータの最適な使い方を学ぶ学問である。大規模な調査の代表とされるものとしては、疾病予防や健康増進を図るための保健統計調査が実施されている。それらに基づいて作成された指標について解説し理解できる基礎知識を身につける。そのために、統計学の考え方と基本的な分析技術を理解し修得する。さらに、1年次に学修する基礎統計学、3年次に学修する理学療法・作業療法研究概論を合わせて、より深い理解と効果的な学びとする。	
	臨床心理学	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。	
	一般臨床医学	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。	

呼吸循環器内科学	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を修得する。
神経内科学	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中枢神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の3大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。
整形外科学	整形外科学は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実践についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学修する。
精神医学	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。
小児科学	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけではなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。
栄養代謝学	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。
医療薬理学	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。

診療画像診断学	<p>医用画像は、工学系技術の進歩により精度の高い視覚的診断、治療材料として広く用いられてきた。本講義では各種撮像法の基本原理と画像診断の基礎を理解する。また理学療法、作業療法の代表的対象疾患の画像を供覧しその病態の理解を深める。画像診断に対する基礎知識は、医療従事者にとって患者の病態像の把握、治療プログラム作成、予後予測等において極めて重要となる。また、他の医療従事者との共通認識を持ち、チーム医療の円滑化にとって必要不可欠な知識である。</p>	
救急医学	<p>健康状態の急激な変化、突然の外傷による身体危機にある人の客観的観察と迅速的確な評価、それに対する初期対処能力を学び実践演習する。本講義では救急医療で診療する頻度の高い疾病の解説とバイタルサイン等の観察手法、また医療、介護、福祉の場だけではなく一般家庭内や職場、学校、災害時等人々が社会生活を営むすべての場で行われるべき医学的初期対応、治療を学修する。また、救急時の本人およびその家族へ寄り添いや、身体的・心理的援助支援についても学修する。</p>	
リハビリテーション工学	<p>著しい発展がみられる工学系領域において開発された技術が、障害をもつ人々に対して理学療法、作業療法分野の実際の介入場面で多く活用されている。利用者本人、家族介護者の健康支援等について活動や参加の視点から生活期、福祉領域、長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方についても理解を深める。また、リハビリテーション工学の歴史とその発展過程を知り、様々な支援機器、福祉機器の種類、その特徴や構造、機能を工学的視点を基盤として学修する。</p>	
スポーツリハビリテーション概論	<p>健康は万人の願いであり、また個々の人生のQOL維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。</p>	
老年学	<p>老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学修する。その為には、加齢に伴う身体・心理的な変化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何かを学修する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。</p>	
保健福祉とリハビリテーションの理念	<p>リハビリテーション医学</p> <p>医学・医療の高度専門細分化、医療に関わる専門職種が増加が顕著な現代社会において、リハビリテーション医学はほとんどの診療科と関わりを持つ。その関りは医療チームにとどまらず生活やその支援に関わる他業種にも及ぶ特別な領域である。本講義ではリハビリテーション医学の全体像、医学・医療における位置づけを理解し、医療チームの一員として治療に参加する基礎を培うために、リハビリテーション医学の関心領域、治療の目的、診断、機能評価、治療手法、治療過程、効果判定、予後予測の基礎について学び、主な対象疾患（脳卒中、骨関節疾患、小児疾患、スポーツ外傷・障害、高齢者、循環器疾患、呼吸器疾患、内臓疾患）ならびに主な障害に対するリハビリテーション医療と生活支援について概説する。</p>	
リハビリテーション概論	<p>本科目では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学修する。</p>	共同

			地域包括ケアシステム論	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。	共同
			社会福祉概論	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。	
専門科目	専門展開科目	基礎理学療法学	理学療法概論	理学療法概論では、理学療法とは何か、理学療法の役割、理学療法に必要な知識や主たる対象、更には理学療法が病気のどの段階で必要となるか、職業人としての理学療法士の職域などを学修する。本科目は、1年生が受講するため今後の学修意欲を上げるため、具体的な事例を紹介しながら理学療法の全体像をつかむだけではなく、理学療法のおもしろさややりがいを知り、各自が理想の理学療法士像をイメージできるようにする。初回からの数回にわたり各自が理想の理学療法士像をイメージし、その理学療法士を目指していく中で、今後の大学内での体系づけられた学修計画を理解し、さらに自己研鑽し今後の学習に向けて意欲を高める。	
			表面解剖学	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、静脈、動脈は、理学療法の検査時における基本的な指標となり、その注意深い観察と触診は病的变化があるかどうかの重要な決め手となる。本講義では、生体観察としての表面解剖学を系統的に講義し、理学療法技術を高めるための生きた知識として表面解剖学を講義する。ランドマークや筋の触診は治療技術に反映されるため、理学療法治療方法へつながることから、講義形式でもあるが触診などの実技を交えて講義する。	
			理学療法研究概論	本科目では、医学的研究とは何かを知る。さらに、臨床で働く理学療法士にとって研究が重要であり、ケーススタディの作成が理学療法スキル向上に繋がることを学ぶ。日々の理学療法士として働く中で、研究の元となる疑問を見付け出すことが大切であることを知る。研究計画書の構成と概要を知る。研究実際に研究を行うために必要な手順を理解する。実際に研究論文の作成から発表に至るまでの過程を知る。研究を行うにあたり倫理的な問題について学ぶ。特に研究を行うものにとって重要な倫理的責務について理解をする。	
			臨床運動学	運動学は、主に健常者の運動、動作の運動を対象とするのに対し、臨床運動学は、主に疾病による機能的制限や能力障害の状態にある者を対象とした動作の観察分析方法であることを理解する。四肢および体幹の各関節における機能的運動学を学修する。また、姿勢動作分析にとって必要とされる運動力学や生体力学を学び、健常者の動作との比較観察を学ぶ。理学療法の対象となる骨・関節疾患、神経系疾患、呼吸循環器疾患を中心に、病的運動、代償運動の出現のメカニズムを理学療法と関連させ講義する。	共同
			理学療法教育学	本講義は、理学療法学において、教育とは何かと言う疑問について広範的視野から検討し考察するための基礎概念を学ぶ。人間の長い人生の中で教育はどのような意味、役割をもつか、また現代の教育、教育制度の根底にある思考は何か、現代教育の問題点は何か、などを知る。また、理学療法士として生涯教育、臨床教育、患者教育等で教育という本質的性格およびその役割と問題点などについて理解する。さらに、それらの改善策があれば具体的方策について検討する機会とする。	

	理学療法管理学	保健医療福祉の場において、理学療法士に求められる様々な管理運営とマネジメントについて、日本理学療法士協会が提唱している倫理規定や具体的な事例を用いて学修する。理学療法部門の日常運営、人事、備品物品管理、予算案の策定と執行、職域拡大に向けての新規事業への参入等の管理運営に関する事項について学修する。病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できることを目的とする。	
理学療法評価学	理学療法評価概論	理学療法評価は患者が抱える障害や問題について、問診や検査などを通じて得られた情報より問題点を分析して、理学療法における治療方針や治療内容を決定するための理学療法所見の統合過程である。臨床では実施する検査を選択するにあたり、他医療職や患者本人から得られる情報は重要である。本講義では医学情報の収集や医療面接、理学療法検査における検査について講義し、1つ1つの検査結果が示唆する所見だけでなく、いくつかの検査結果を複合して患者像をとらえなくてはならない重要性、得られた所見から患者の機能障害、能力障害、社会的な環境における障害について評価することを学ぶ。	
	理学療法評価検査・測定論	理学療法検査は疾患や患者が抱える障がいにより選択される。本講義では形態測定、整形外科テスト、知覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーン検査、片麻痺運動検査、脳神経検査、高次脳機能検査、日常生活活動動作に関連した検査、呼吸機能検査、循環機能検査、基本動作や歩行に関する動作分析などの方法や検査結果の記録について学ぶ。さらに各疾患や障がいにおいて選択する理学療法検査とその所見の分析について示し、ゴール設定、理学療法の決定をするために評価として所見を統合する過程を学ぶ。	
	理学療法評価検査・測定論	理学療法に必要な関節可動域測定と徒手筋力テストについて理解する。具体的には、関節可動域測定は基本軸・移動軸・参考可動域・測定上の注意事項について理解する。徒手筋力テストは、検査測定の実施、代償運動の見極め、手動作筋・起始・停止・神経支配について理解する。より実践的に検査・測定ができるように、環境の整備の大切さを理解する。また、理学療法において臨床場面でみられる典型的な疾患や外傷のX線画像やCT画像、MRI画像についても理解を深める。	
	理学療法評価検査・測定演習	理学療法評価概論にて学んだ評価過程における検査を実践し、その結果を検証してまとめるまでの演習を行う。疾患にあった評価項目の抽出や評価から得られた結果をもとに統合と解釈を行い、理学療法の治療・訓練場面へ結びつける考え方を理解する。また、多くの臨床事例を示し、具体的に理学療法評価としての症例検討を行う。さらに、実際の臨床場面を想定して技能面だけではなく、挨拶や声掛け、コミュニケーション等の態度面についてのスキルの重要性を理解する。	
	理学療法評価演習	脳神経外科疾患や神経内科疾患、整形外科疾患などの症例を設定し、それに対する理学療法評価を演習形式で学修する。1疾患につき評価シミュレーションとフィードバックの2回実施する。シミュレーションごとに患者役と評価者役は学生間で交替して行う。疾患ごとに評価項目を的確に選択する。そして、検査結果を記録し、問題点・ゴール・治療プログラムを導き、総合的に考察ができることを授業目標とする。評価シミュレーションは、実習前に行うOSCEの評価課題内容を盛り込んで行う。それにより、円滑な評価方法について理解する。	共同
理学療法治療学	運動療法は、臨床における理学療法の中核をなすものである。科学的根拠に基づいた運動療法の理解は、臨床的でより実践的な障害別理学療法を学ぶ上で重要な要素となる。運動療法には、解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎医学の関連性とその応用が必要であることを理解する。本講義は、運動療法を適切に行うための基礎的な知識を修得することを目的とし、運動療法の概念、対象疾患とその障害、運動療法の適応と禁忌、リスク管理、運動の危険因子さらに運動療法の目的と治療計画立案等の基礎理論を学修する。	共同	

運動療法学演習	本演習では、理学療法対象の代表的疾患に対して、学生同士のロールプレイングにより、基本的な運動療法技術を模擬的に示すことを目的とする。各演習では、筋力の維持・増大、関節可動域の維持・改善、筋持久力の維持・改善、全身持久力の維持・改善、協調性の改善、疼痛の軽減、リスク管理、呼吸循環代謝病態の改善等を目的とした運動療法の基本的手技を小グループ毎に実施する。学生は、治療者としての技術面と同時に、患者としての心理面への影響についても実践的に学修する。	共同
物理療法学	物理療法は、運動療法とならび理学療法の重要なアプローチ方法である。物理療法は、物理的エネルギーによる生体への影響を利用して治療効果を得ようとするもので、張力・圧力・電気・光・温熱・寒冷などの物理的エネルギーの理解が必要である。物理エネルギーの基礎知識を踏まえながら、物理療法の基礎や臨床での応用、物理的刺激が生体に与える影響や臨床的に病態生理に対する影響について理解する。物理療法の適用の多い病態を理解し、症状や病態による禁忌について理解する。	
物理療法学演習	物理的エネルギーを生体に与えることで、疼痛の緩解や循環の改善など、生体の有する自然治癒能力を賦活させるように働きかける治療法である。物理療法学演習では、物理療法学で学習した温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気療法、水治療法、牽引療法等の各種治療法を、実際に物理療法機器を使用し体験することで、その生理学的作用を確認し、手順や使用上の注意点、リスク管理について更に理解を深める。OSCEの物理療法課題内容を盛り込むことにより、学生が臨地において円滑な物理療法の実施手順が理解できることを目的とする。	
日常生活活動学	理学療法対象者の日常生活動作練習や家族への助言、環境調整についての提案が実施できるようになるために必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、国際生活分類(ICF)や日常生活活動(ADL)、生活の質(QOL)などの概念、食事・更衣・トイレ動作・入浴・整容といった身の回り動作、BIやFIMおよび動作分析などの評価方法、指導法について学ぶ。各疾患のADL練習については評価・観察時の視点、機能レベルとの関連、動作時に起こる問題の原因の確認のうえで適切な目標設定とプログラム立案ができることを目指す。	共同
日常生活活動演習	本演習は、理学療法評価学を基盤として各疾患の対象者に見合った日常生活動作練習を実施するために必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、対象者を援助するために各疾患による障害特性を理解しながら、その障害の程度、予後予測からなる練習法、介護指導法、福祉用具の使用等、また生活の質の向上までを網羅した生活現場の日常生活活動等について学修する。また、実践場面を想定したシミュレーション場面を用いて、実技についても学修する。	共同
義肢装具学	リハビリテーション医療における義肢装具の役割は大変重要である。義肢装具を用いることにより失われた機能・生活能力を獲得できることは本来のリハビリテーションの基本概念である。患者に直接リハビリテーションを施行する理学療法士が、各装具の特性や提供時期を誤ることなく義肢装具士をはじめとする他の専門職と円滑な連携をとるため、各種装具とその特性、アライメントや使用する部品、対象者の把握、環境等の関係を調整することができる基本的知識を修得する。また、近年の役割分担が細分化し、専門職として義肢装具士が担う装具のチェックアウトについても、直接患者と向き合い施行する理学療法士が正確に評価できる視点を本科目では学んでいく。	
義肢装具学演習	義肢装具は関節の固定や共制、安静、保護、失われた機能の代償として用いられる。その適応は非常に繊細であり、例えば脳卒中片麻痺患者が使用する短下肢装具の足関節角度を数度という少しの変化を施行するだけで、歩行周期における足関節の直接的な影響とともに、膝関節や股関節体幹の動きを変化させ、安定した効率的な歩行にすることができる。下肢切断では使用する膝継手や足継手の特性を最大限利用することにより能力を向上させることができる。しかし、それはその調整如何で悪影響を及ぼすこととなる。患者に直接接し理学療法を施行する理学療法士が、その義肢装具の特性を、自身で体感し義肢装具の重要性を知ることが本講義のポイントである。	

リハビリテーション関連機器	人体の構造と機能を、工学的観点から捉えることにより得られた結果を、理学療法における評価、治療に役立てる手法について学ぶとともに、一人一人が生活する環境を把握し柔軟に対応できる手法を理解する。具体的には、重要性を増しているさまざまなリハビリテーション機器とその使用法について紹介し、あわせてリハビリテーション機器の現状と問題点についても解説する。さらに、様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた具体的方策について、その立案および提案方法を実践するため、リハビリテーションの現場で用いられている簡単なリハビリテーション機器の制作方法について理解を深める。	
理学療法基礎治療技術論	本科目では、理学療法において重要な位置づけとされている運動療法の基礎的理論、技術について学ぶ。運動療法の歴史、および理学療法における位置づけ、個々の関節構造に対応する関節可動域トレーニング方法や筋収縮様式を配慮した筋力トレーニングなどの治療法から運動療法の目的、選択およびその対象と適応、更に実施時のリスク管理などを学修する。また、理学療法を行う上で使用する機器類の操作方法など、注意点などを含め、基礎的な治療方法を理解し学修する。	共同
中枢神経系理学療法学	中枢神経系疾患の病態や、それに伴う障害について理解し、理学療法場面においてもっとも多く経験する中枢神経系疾患の一つである脳血管障害を中心に、脊髄損傷、パーキンソン病や失調症など、中枢神経障害の評価と理学療法治療技術について学修する。また併存疾病である嚔下障害に関する知識も、中枢神経障害の理解のためには、脳や脊髄といった中枢神経の機能解剖を理解する必要があることから、解剖学、生理学的な根拠を示しながら講義を展開する。	共同
中枢神経系理学療法演習	脳神経疾患や神経内科疾患などの症例を設定し、それに対する理学療法評価及び治療プログラム実施を演習形式で学修する。グループで構成したメンバーは、各評価シミュレーションごとに患者役と評価者役を学生間で交替して行う。事前に疾患の家族構成も含めたバックグラウンドを吟味し、グループ内で情報共有して患者役のイメージが変わらないことを前提とする。他のグループが患者役の状態から評価項目を的確に選択する。そして、検査結果を記録し、問題点・ゴール・治療プログラムを導き、総合的に考察が出来ることを授業目的とする。	共同
運動器系理学療法学	運動器疾患には筋挫傷や腱、靭帯損傷のような骨関節障害、胸郭出口症候群、手根管症候群や肘部管症候群にみられるような絞扼性神経障害、脊髄損傷や椎間板ヘルニア、関節リウマチなど様々な組織の障害に起因する疾患がある。運動器疾患の病態や画像評価、それぞれの疾患の理学療法評価や理学療法について解剖学、生理学、運動学、病理学にもとづく医学的根拠とともに学ぶ。理学療法は保存療法、術前・術後理学療法について、リスク管理も含めて学ぶ。	共同
運動器系理学療法演習	運動器疾患の理学療法を実践するためには整形外科疾患に関する知識、それに伴う病態を理解し、どの組織に問題があるかを検出して治療を行わなくてはならない。そのためには姿勢や患者自ら動く運動の質、触診から得られる所見、筋・靭帯・関節・神経に対する理学療法検査を行い、明らかとなった症状や病態に対する治療を行う必要がある。本講義では、徒手的な治療方法であるマニュアルセラピーの知識と手技を修得することを通して、運動器疾患の理学療法について学ぶ。	共同
スポーツ障害理学療法学	スポーツ障害は他選手との接触や転倒などによる外傷、反復した動作により特定の組織に負荷がかかり生じる過用、誤ったトレーニング方法やトレーニング負荷、バイオメカニクスの視点から見た誤った身体の使い方により生じる誤用などにより発症する。スポーツ障害に関与する理学療法士にとって基礎となる知識を、各関節の機能解剖・バイオメカニクス、競技特性と好発しやすいスポーツ障害、環境、栄養などの視点から学び、スポーツ現場における理学療法士としての知識を修得する。	

スポーツ障害理学療法演習	<p>スポーツ障害は運動器障害の一部であるが、高い競技レベルの選手のスポーツへの復帰は運動器障害よりも高いパフォーマンスを要する。スポーツ復帰を視野に入れた理学療法では各種目に特化した動作に関する機能的な評価と治療を選択しなくてはならない。また、高い身体パフォーマンスを獲得するための理学療法と並行して再受傷を予防することを配慮する必要がある。本講義では各競技において好発しやすい障害とその評価、スポーツ障害における理学療法、テーピングの実践方法について学ぶ。</p>	
発達障害理学療法学	<p>正常発達についての理解をベースに、障害がある子どもの運動・認知面などの発達の遅れを的確に評価したうえで、介入できる知識の修得を目的とする。具体的には、正常な運動発達について、粗大運動と原始反射や姿勢反射、平衡反応との関連性を踏まえながら解説する。また、理学療法の対象となる代表的な中枢神経障害や染色体異常による障害、筋骨格系障害のほか、近年注目されている自閉症スペクトラムや発達性協調運動障害などの発達障害も含めて各疾患の原因や予後、運動機能障害の特徴を中心とした障害像を学修する。さらに、各々の疾患や障害に特有な理学療法の評価における視点や介入の実際について総合的に理解していく。</p>	
発達障害理学療法演習	<p>「発達障害理学療法学」で得た知識をベースとして、評価のポイントや介入の方法を実技やグループ学習を通して学び、臨床実習や国家試験にも対応できる知識と技術ならびに評価の目を養うことを目的とする。具体的には、中枢神経疾患や染色体異常、筋骨格系疾患がある子どもに対して理学療法評価をもとに正常な感覚・運動経験を与える目的の促通練習のほか、上田法治療の基礎知識と技術についても触れる。また、自閉症スペクトラムや発達性協調運動障害などの発達障害がある子どもに対しては、運動療育をベースとした運動発達の促進のほか、理学療法士の視点から教育や就労に対する支援の在り方についてケースワークを通して学んでいく。</p>	
内部障害理学療法学	<p>本講義では、内部障害の誘因となる生活習慣病や近年注目されるサルコペニア、フレイルとの関連の学修から始まり、内部障害と密接に関わる運動耐容能、ADL制限およびその評価方法を学ぶ。各論では、内部障害をもたらし主要疾患の病態、一般的医学検査、標準的治療などを解剖学、生理学、運動学等の基礎医学の知見を踏まえながら学修する。また、これらの疾患に対する適切な理学療法評価と結果の解釈、科学的根拠に基づいた理学療法介入までの一連の過程を学修する。</p>	共同
内部障害理学療法演習	<p>内部障害理学療法学の講義内容をもとに、医学的検査の一部、理学療法検査・測定、理学療法介入手法について演習形式にて学修する。具体的には、内部障害と深く関わる運動耐容能やサルコペニア・フレイルに対する評価や、理学療法士が接する機会が多い、呼吸器疾患・心血管疾患・糖尿病を中心に取り上げ、各疾患に対するフィジカルアセスメントや標準的な理学療法評価、介入手法を学修する。後半では、各疾患の仮想症例を提示し、臨床推論し、理学療法プログラム立案までの一連の過程をシミュレーションによって学修する。</p>	共同
老年期障害理学療法学	<p>リハビリ専門職に求められる役割は多岐にわたり、高齢者に理学療法を実施する上で高齢者の身体的特徴を理解する必要がある。運動機能、感覚機能、生理機能のみならず認知・精神の特徴を捉えた上でフレイル、低栄養、摂食・嚥下障害、その他の併存疾患についても学び理解する。また高齢者の理学療法を実施する上で、血圧や不整脈、エネルギーバランスに留意することも重要である。また、リスク管理、安全管理のための運動と負荷量設定における基礎知識についても学修する。</p>	共同

	介護予防演習	介護予防は、人生100年時代における高齢者の介護状態に陥ることを予防する国家的プロジェクトとして、全国の各市町村で高齢者対策事業として取り組まれている。この事業は、対象者本人に対する介入にとどまらず、(1)介護予防における市町村のリーダーシップ構築、(2)市町村が主体的に介護予防に取り組むための組織づくりと運営、(3)効率的・効果的な短期集中予防サービスの実施として、社会全体で介護予防を推進している。その中で理学療法士の担う役割を理解するとともに、介護予防分野の中で何ができるかを考え、さらに実践するための基本的知識と行動力を身につける。	共同
地域理学療法学	地域理学療法学	1965年に理学療法士が我が国に誕生以来、その初期は、ほとんどの理学療法が医療機関で行われていたが、現在では地域社会で生活する人たちの保健領域にも介入するようになった。医療施設から地域連携クリニカルパス導入で発症から維持期、生活期までの切れ目のないサービスが提供され、誰もが住み慣れた地域で障がいを持ちながら安心して過ごすことが実現可能となりつつある。このような社会情勢の変化の中、地域理学療法学が重要で意義のある分野となっている。本分野は歴史が浅く関連法改正等の変動性のある中、理学療法士が地域理学療法分野でどのような役割を持ち、何をすべきかという本質を学び、将来の担い手として活躍できる基本理念や介入方法技術を学修する。	
	地域理学療法学演習	理学療法は高齢者や障がい者およびその家族が住み慣れた地域において継続して生活できるよう、保健・医療の分野から、主として生活支援の視点で大きな役割を担う。本講義では、1)老年学を基盤とする領域(加齢、高齢者に対する機能評価と理学療法、介護予防、転倒予防等を含む)、2)保健活動を基盤とする領域(健康増進、生活習慣病予防、高齢者および女性の健康管理、集団評価と健康づくりのためのシステム構築等を含む)、3)在宅支援領域訪問(訪問リハ、介護者支援または負担軽減を含む)の3つの領域における理学療法の役割を演習を通して理解する。	共同
	生活環境学	我が国は、高齢者人口が飛躍的に増加し、平均寿命健康寿命共に世界に誇れる長寿国となった。しかし高齢者や障がい者を取り巻く環境は楽観視できない。理学療法士は生活活動の機能に着目し、高齢者や障がい者ができる限り自立した生活を営めるよう支援することを社会から求められている。本講義では、高齢者や障がい者が在宅で生活するための住環境整備を中心に、現在の住宅事情から住宅改修の方法および福祉政策などを学ぶ。さらに医学的視点で対象者の生活機能障害を分析し、その結果をもとに建築士などの多職種と連携しながら生活環境の整備を行うことができるよう、建築関係の専門家との共通言語を学び実現可能な知識を身につける。	共同
	レクリエーション実践	理学療法士がレクリエーションを提供し、運営することを期待されていることから、理学療法士とレクリエーションの関係について理解する。レクリエーション活動を通して、治療的な意義や生活の質を向上させるためのツールとして、地域の人々に提供ができる方法を考察する。他職種とは異なる理学療法士独自の視点でレクリエーションを位置づけ展開することが重要であり、理学療法士の特性をアピールし、地域に認知してもらうため、理学療法士が行うレクリエーションの意義や背景も含めて知識・技術を身につける。基本的なレクリエーションの概念と、保健・医療・福祉の場におけるレクリエーション計画方法、作成方法および治療的レクリエーション活動の実践技術を修得する。	共同
	多職種連携論	チームアプローチにおける関わりが必須とされ、今後はリハビリテーション業務への関わりが少ない職種に対して、情報およびリスク管理に着目した目的共有に対する教育や啓発への役割が必要であるといわれている。今後、多職種連携型チームアプローチの中で、リハビリテーションスタッフの専門分野における情報共有の必要性を学び、リハビリテーション関連職種としてコーチング等、自発的に情報伝達できる、リハビリテーション専門職として必要な知識を身につける。また保健・医療・福祉との関連・連携について理解を深める講義を展開する。	共同

臨床実習	臨床実習（基礎）	臨床実習施設での見学を通して、医療や社会の中での理学療法士の役割と責任を学ぶ。見学による対象者とのコミュニケーションや実習指導者の指導から、これまで学んだ基本的知識と疾患、障害像との繋がりを深め、多様性を理解するきっかけとする。臨床実習指導者、対象者、多職種とのコミュニケーションを通じて、専門職としてふさわしい姿勢、態度を学ぶ。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察することで、これ以降の専門科目を通じての知識修得を、より効果的かつ有意義に行えるよう学修する。	共同
	臨床実習（地域）	通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーション施設の見学を通して、利用者が地域の中で充実した生活を送るために、理学療法士が介入する重要性やその手段を学ぶ。地域理学療法士をはじめ、地域包括ケアシステム論、社会福祉概論、生活支援概論などで学んだ知識を実際の臨床場面から経験、統合し理解を深める。さらに地域ケア会議等に参加することで、多職種連携の重要性、その中での専門職としての役割と責任を理解する。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察することで、これ以降に学ぶ地域理学療法演習、生活環境学、多職種連携論に活用できるよう学修する。	共同
	臨床実習（評価）	理学療法の評価過程について、これまで学内で学んだ基本的な検査・測定方法を中心に、実習指導者の指導・監督のもと実際に対象者へ実践する。これにより理学療法評価に必要な検査・測定技術を習熟させ、対象者へ臨床応用する過程を学ぶ。また、対象者の全体像から、介入に向けた課題や目標を把握するため問題点を整理し、原因を推測して解決に導くまでの臨床推論過程を学ぶ。臨床実習前には客観的臨床能力試験（OSCE）により、臨床実習遂行にあたっての検査・測定の知識・技能を事前に確認する。臨床実習後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、臨床実習に必要な評価技能と思考力を醸成する。	共同
	臨床実習（応用）	臨床実習（評価）で培った、対象者への評価結果から導かれる臨床推論に基づき、解決に向けた基本的な理学療法プログラムを立案・実践する一連の過程を学ぶ。これらは実習指導者の指導・監督のもと対象者へ段階的に実施し、その効果判定を行う。また疾患固有の検査・測定方法や治療技術を見学し、専門領域における応用的理学療法を学ぶ。臨床実習前には客観的臨床能力試験（OSCE）により、臨床実習遂行にあたっての評価能力や、基本的理学療法の知識・技能を事前に確認する。臨床実習後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、臨床実習で学ぶ応用的理学療法の学習基盤となるよう学修する。	共同
	臨床実習（総合）	これまで履修した科目や臨床実習～で学んだ知識・技術を総合し、対象者への評価から基本的理学療法実施までの一連過程の習熟を図る。また、実習指導者の指導、監督のもと病態、重症度に応じた安全かつ効果的な応用的理学療法を見学あるいは模倣し学ぶほか、カルテ記載や実施計画書等の書類作成の見学や模倣についても行い、リハビリテーション部門の管理・運営に関する基本的事項について理解する。臨床実習前には客観的臨床能力試験（OSCE）を実践し、疾患固有の評価、理学療法の知識・技能を事前に確認する。臨床実習終了後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、卒業後の理学療法業務の基盤とする。	共同
総合理学療法学	実践力演習	医療職は患者、患者の家族、他医療職との関係を築くために礼節、医療職としての知識が不可欠となる。独自の領域においてそれぞれ専門職としての知識と判断力・実践力を必要とする。本講義ではアクティブラーニングを主体とすることにより、礼節、医療面接技術、基礎的な医学用語、医療チームとしての理学療法士について学ぶ。これらの知識を修得するために医学を学ぶ学生として必要な医学文献の検索方法、文献から必要な情報を読み取る力、レポートの作成、プレゼンテーションについて学ぶ。	

		実践力演習	<p>実践力演習 において修得した、理学療法を学ぶ学生として必要な医療チームの一員としてのスキルを基に、地域社会での健康支援、障がい者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、防災・災害リハビリテーション等多岐にわたる理学療法領域で、理学療法の中核を担う[身体の構造]を題材として、テキストなどの2次元の情報から、立体モデルを小グループ単位で自主作成する。知識や意見を表現・集約することを通じて、他者との協働や相互作用を高めるアクティブラーニングの手法を取りながら、3次的に身体を捉える能力を身につけていく。</p>	
		実践力演習	<p>実践力演習 において修得した、理学療法士としての中核である「身体構造の理解」を基に、患者の姿勢や運動パターンから得ることができる所見、さらに筋や関節の障害、疼痛、麻痺など様々な症状や病態が複合した障害像を、その他の理学療法検査や他部門の検査所見を通じて総合的に情報集約する技術を修得する。その過程で起こりうる状況に応じた問題発見や解決を小グループ単位で学びあう。本科目では、患者の状況を再現し、理学療法検査所見が示唆する機能障害や能力障害が姿勢や動作にどのように反映されているかを分析していく過程を学び、知識やスキルを将来現場で活用し省察するための学修を、学生が創造的かつ主体的に進めていく。</p>	
		総合演習	<p>本科目は、4年間における本学科での学びの集大成として、各講義や臨床実習などで学んだ知識を改めて整理し発展させ、リハビリテーション専門職者として必要な総合的能力を統合させていくことを目的とする。具体的にはゼミナール形式により、これまでに学修した内容を、より臨床に向けて整理し直していく。指導教員から提供された臨床情報の解釈を加えて、卒業後に1人の理学療法の専門職として自立できるための準備の段階として、本学で学んだすべての講義や演習、実習の成果を総括していく。</p>	
		卒業研究	<p>卒業後に理学療法士として臨床に携わりながらも、最新の知識と技術を求めて学修していく自発性と、リハビリテーションや理学療法に関する課題を見出し、探究心をもちつつ研究していく心構えを身につけることを目的とする。具体的には、4年間の理学療法学の修得と実践を通して、自身が興味や疑問を抱いたことを研究テーマとし、ゼミ指導教員の指導のもとで、文献検索、研究計画の策定から実験や調査の実施、データ処理、論文作成、発表までの一連のプロセスを進め、研究論文としてまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科学科目 基礎分野	科学的思考の基盤	基礎ゼミナール 本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。	
	情報科学	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。	
	基礎統計学	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。	
	問題解決法	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿をどのように描いていくのが課題となっている。問題解決法とは、これからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立て、それに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどについて学生間の討議を中心に授業を進める。自分とは何か？という問いかけなしに自己実現や人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方や自己実現について学修しながら、学生が自らの目的を考察する手がかりとし、遭遇する問題とその対処法も思索する。	
	哲学	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。リハビリテーションは実践の科学であると共に、リハビリテーションの対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「人間とは何か」を考察する。	

人間と生活	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語(Medical Term)をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。	
	英語	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、「英語」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。	
	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療に特有の語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について、意見交換ができることを目指す。	
	英語	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。また英語の文法や文型を復習しながら、心理的な教材の読み方の基本的な理解と研究文献に対する基礎的な読解力を育む。	
	中国語	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。毎回の授業の流れは、前回の復習、単語の読み方練習と文法の説明、基本本文と会話の文章を学ぶ、入れ替え練習と応用、の順に進め、多くの会話練習ができるような講義を目指す。	
	中国語	「中国語」の続編として、「中国語」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。授業の流れとしては、前回の講義で学んだ単語やセンテンスの聞き取りテスト、単語の読み方練習と文法の説明、基本本文と会話の文章を読む、入れ替え練習と応用、の順に進め、授業中は、多くの会話練習ができるような講義を目指す。	

教育学概論	<p>教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。人間にとっての教育の意味を説明することができること、教育学の基礎的な知識を身につけ、理解すること、現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることを講義の目的とする。</p>	
現代の倫理	<p>倫理学あるいは道徳哲学は、価値と規範にかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法について、具体的なテーマを考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるべきであるのか、その示唆を与えてくれる思考法を学修し、リハビリテーションの対象となる人の理解につなげることを目的とする。</p>	
現代の教育	<p>現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。現代の教育の多様なあり方を社会状況と合わせて理解することができること、現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができること、社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べることを講義の目的とする。</p>	
心理と行動	<p>心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることを目的とする。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。</p>	
健康と生活	<p>健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。</p>	
岐阜県の歴史と文化	<p>文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。</p>	

		社会の理解	自己管理と社会規範	リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと 時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。	
			チームワークとリーダーシップ	人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできない。将来のリハビリテーションの職務においても重要な概念であり、チームの中で各メンバーはどうふるまうべきか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かす方法やアプローチについて、事例を交えて講義する。授業は学生による発表やグループディスカッションを中心に進める。	
			人間関係論	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創り上げる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら講義を展開する。	
			コミュニケーション論	リハビリテーションを含めた医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーションの場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とどのようにコミュニケーションすべきかについて、原則論と事例を示しながら解りやすく解説する。本講座では、講義だけでなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際のリハビリテーションの現場で役立つ人材の育成を図る。	
			健康と運動（体育）	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあっては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医科学と健康についての基礎知識を学修するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。	
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	人体を構成する運動器（骨・筋・靭帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。	
			解剖学演習	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靭帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。	

機能解剖学	四肢、体幹の骨、筋、神経について理解し、実践に役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動器官の形態を骨・関節・筋・神経の個々について学び、「ベクトル」と「トルク」の発生機構とそれによる機能を「力の合成、分解」と関係して結び付け、力学的構造を理解する。頭部、体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、リーチや把握、体重移動や歩行時の軸変化の構造について理解する。	
機能解剖学演習	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び、機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演習する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。	
生理学	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを一つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についても講義する。	
生理学	生理学の講義を補足し、人体の各機能のうち、特に、血液、循環、呼吸、消化器（口腔、胃、肝臓、小腸、大腸の機能）、排泄（腎臓、膀胱の機能）、代謝の基礎を学習する。また、各器官の関連性を学び、細胞の機能から個体の行動に至る正常な働きとそのメカニズムを理解する。そして、生理学（総論）で学修した神経系並びに内分泌機能を復習しながら、循環、呼吸、消化、排泄における神経性及び内分泌性調節機能の理解を深める。	
生理学演習	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学で得た知識をより深く理解するため、演習を通じ、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。	
運動学	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。	共同
運動学	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的反応を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心とした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ学習されているのかについての理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。	共同
運動学演習	運動学演習では人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を基本として理解する必要がある。運動学で学修した知識を基礎として、電気生理学的、力学的、動作分析的に読み取り、考察することにより学修内容の理解を深める。運動・動作課題に伴う体の動きを目で確かめ、手で触れることを通じて運動と骨格筋の働きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈するプロセスを経験する。	共同

	生命倫理	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究利用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起るのか、ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのかなどの困難なテーマについて考察を深め、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもちたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。	
	人間発達学	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程や、一つ一つの減少のメカニズムを学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因で起こり(病因)、どのような変化を生じ(病変)、どのように推移(経過)、最後にどうなるか(転帰)など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。病理学を総論と各論に分けて学び、総論は疾患を、退行性病変(萎縮、代謝障害、壊死)、循環障害、進行性病変(肥大、増生、再生、化生、創傷治癒、異物処理)、炎症、腫瘍、先天性異常の組み合わせとして理解し、各論で代表的な疾患を、総論で学んだ知識を基に体系化する。	
	感染防御と安全管理	感染に関わる病原体や非自己化した自己細胞に、身体は日々対処し健康を維持している。本講義では生体の防御機構の仕組みを学び、ヒトがどのように常性を保っているのかを学ぶとともに、各種感染症の感染経路と病態について講義する。また、医療事故について、その背景にある医療職を取り巻く社会的環境と医療現場の現状について学ぶ。リハビリテーション部門で起こりやすい医療事故防止の為、安全管理の在り方、施設内感染における感染防護の必要性とその方法を講義する。	
	保健統計学	統計学とは、集積されたデータの最適な使い方を学ぶ学問である。大規模な調査の代表とされるものとしては、疾病予防や健康増進を図るための保健統計調査が実施されている。それらに基づいて作成された指標について解説し理解できる基礎知識を身につける。そのために、統計学の考え方と基本的な分析技術を理解し修得する。さらに、1年次に学修する基礎統計学、3年次に学修する理学療法・作業療法研究概論を合わせて、より深い理解と効果的な学びとする。	
	臨床心理学	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。	
	一般臨床医学	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。	

呼吸循環器内科学	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を習得する。
神経内科学	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中枢神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の3大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。
整形外科	整形外科は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学修する。
精神医学	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。
小児科学	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけでなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。
栄養代謝学	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でのどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。
医療薬理学	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。
診療画像診断学	医用画像は、工学系技術の進歩により精度の高い視覚的診断、治療材料として広く用いられてきた。本講義では各種撮像法の基本原理と画像診断の基礎を理解する。また理学療法、作業療法の代表的対象疾患の画像を供覧しその病態の理解を深める。画像診断に対する基礎知識は、医療従事者にとって患者の病態像の把握、治療プログラム作成、予後予測等において極めて重要となる。また、他の医療従事者との共通認識を持ち、チーム医療の円滑化にとって必要不可欠な知識である。

	救急医学	健康状態の急激な変化、突然の外傷による身体危機にある人の客観的観察と迅速的確な評価、それに対する初期対応能力を学び実践演習する。本講義では救急医療で診療する頻度の高い疾病の解説とバイタルサイン等の観察手法、また医療、介護、福祉の場だけではなく一般家庭内や職場、学校、災害時等人々が社会生活を営むすべての場で行われるべき医学的初期対応、治療を学修する。また、救急時の本人およびその家族へ寄り添いや、身体的・心理的援助支援についても学修する。	
	リハビリテーション工学	著しい発展がみられる工学系領域において開発された技術が、障害をもつ人々に対して理学療法、作業療法分野の実際の介入場面で多く活用されている。利用者本人、家族介護者の健康支援等について活動や参加の視点から生活期、福祉領域、長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方についても理解を深める。また、リハビリテーション工学の歴史とその発展過程を知り、様々な支援機器、福祉機器の種類、その特徴や構造、機能を工学的視点を基盤として学修する。	
	スポーツリハビリテーション概論	健康は万人の願いであり、また個々の人生のQOL維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。	
	老年学	老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学修する。その為には、加齢に伴う身体・心理的な変化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何かを学修する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。	
保健福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	医学・医療の高度専門細分化、医療に関わる専門職種が増加が顕著な現代社会において、リハビリテーション医学はほとんどの診療科と関わりを持つ。その関りは医療チームにとどまらず生活やその支援に関わる他職種にも及ぶ特別な領域である。本講義ではリハビリテーション医学の全体像、医学・医療における位置づけを理解し、医療チームの一員として治療に参加する基礎を培うために、リハビリテーション医学の関心領域、治療の目的、診断、機能評価、治療手法、治療過程、効果判定、予後予測の基礎について学び、主な対象疾患（脳卒中、骨関節疾患、小児疾患、スポーツ外傷・障害、高齢者、循環器疾患、呼吸器疾患、内臓疾患）ならびに主な障害に対するリハビリテーション医療と生活支援について概説する。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学修する。	共同
	地域包括ケアシステム論	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。	共同

			社会福祉概論	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。	
専門科目	専門展開科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	作業が人間の健康に寄与することを理解し、作業療法士はどのようにこれらのテーマを医療、福祉、教育などの分野で展開してきたかについて学ぶ。作業療法の対象となる「障害」についてはWHOによる障害の分類であるICFを理解し、この障害を理解、体験し、考えることによって、作業療法士としてのキャリア形成を明確化する。また、作業療法の歴史的、法的位置付け、実際の方法論などの概要について理解し、各技術論や実習を学ぶ態度を身につける。	共同
			表面解剖学	本講義では、解剖学のなかでも生体観察としての表面解剖学を系統的に講義し、リハビリテーション医療技術を高めるための生きた知識として表面解剖学を学ぶ。体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、神経、血管は、リハビリテーション医療をすすめる上で、基本的な指標となる。リハビリテーション医学評価に関わる検査時、運動療法や作業療法時における活動の注意深い観察と触診は病的変化があるかどうか、治療の効果判断の重要な決め手となる。	共同
			基礎作業学	作業療法学を支えている基礎的な知識として、人間にとって「作業」とは何か、その本質と役割を理解する。作業と健康の関連性を医学、福祉学、社会学視点から確認し、さらに作業を治療として用いるための仕組みを学ぶ。作業が人間にとって環境適応として、どのような意味を持つのか、健康に寄与するためにかかせない要素はなにか、生活と個人の生涯設計を形成する作業と、作業療法という形で医療分野に位置付けられてきた過程を考える。	共同
			作業療法理論	作業療法を解説する理論はリハビリテーション医学の中でも臨床での実践の中にあるという立場から、健康パラダイムにおける作業療法実践の目的と意味、根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて学ぶ。人・環境・作業の関係性を交流理論形成の発展としてとらえる中で、概念的実践モデルの特性と役割について、特に現在普遍化されている作業科学、人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル、認知行動療法、感覚統合などの理論を理解する。	
			基礎作業学演習	作業療法の治療手段の1つである手工芸として、革・籐細工について基本的な知識と技術を学ぶ。作業体験を通して、作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を理解する。作業分類の特徴と運動生理学・心理機能・ライフステージとの関係から活動分析を行い、革・籐細工に必要な身体的・精神的能力を知り、作業療法としての効果について考察する。また障害別に、治療の応用、制作時の工夫（自助具など）、注意事項、禁忌事項を学修する。	共同
			作業療法研究概論	作業療法のリハビリテーション医療としての根拠を支えている研究法の種類、研究テーマの決定、方法論の作成、データの処理方法などを学ぶことを通して、科学的研究法とは何かを学ぶ。作業療法は臨床の科学であるゆえに、実際に臨床研究を行うにあたり、その手法や論文の書き方、プレゼンテーションの技法についての事前学習の位置付けとする。作業療法士として必要な生涯学習や後進の育成について、養成教育、国家試験の出題基準、参加型臨床実習、臨床教育の方法を学ぶ。	共同

	作業療法教育学	作業療法の実施にあたって、教育学の知識と技術は欠かせない。臨床での応用に加えて、作業療法士として必要な生涯学習や後進の育成について、養成教育、国家試験の出題基準、参加型臨床実習、臨床教育の方法を学ぶ。教育の歴史、教育に関わる様々な思想、それらの実践例をとおして、教育の哲学、制度、教育の目的と使命についてその概要を理解する。特に19世紀以降の公教育制度の構築と展開に焦点をあてて、現代社会における作業療法「教育」の意味を考える。	
	作業療法管理学	作業療法の理念、倫理、歴史、医療人としての人間像を追求する視点から作業療法管理学を考える。社会が療法士に何を期待しているのか、また、医学的リハビリテーションの中で果たすべき役割を自覚し、リハビリテーションに関与する他の職種、職域を理解しリハビリテーションチームの円滑な運営方法について学ぶ。さらに、臨床におけるリスク管理について理解するとともに、病院、施設の組織及び作業療法施設基準、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬等を含む、作業療法部門の運営について学ぶ。	
作業療法評価学	作業療法評価概論	作業療法における評価の位置付けとその具体的な内容について講義する。作業療法評価の位置付けとしては、評価は障害の原因を探るためのデータ収集であり、個々の評価結果のみで判断し得るものではないことを強調し、問題点や目標設定との関連性も含めた統合と解釈の重要性を学ぶ。具体的な内容としては、作業療法評価の概要・目的・測定機器の使用方法・流れについて論じ、問診、観察、バイタルサイン、形態測定、神経学系測定、運動機能評価、呼吸・循環・代謝機能評価等を学び、その内容を理解する。	共同
	作業療法評価検査・測定論	作業療法士が病院・施設等で支援を展開するためには、対象者を専門的に評価し、問題点を明らかにする必要がある。その上で、人体の各機能における標準値との比較、左右の比較等、正常値と異常値の判別、更には問題点の焦点化に向けた科学的根拠に基づく論理的考察が重要となる。本講義では、医療系専門職の共通評価であるバイタル測定をはじめ、作業療法士に必要な関節可動域測定、徒手筋力テスト、機器を使用した筋力測定、反射、筋緊張検査の知識と技能を学修する。	共同
	作業療法評価検査・測定論	心身機能に関する作業療法評価において各種検査項目の検査内容や評価結果の分析、記録・報告の方法を理解する。基本的な実施方法や手順の倫理的根拠を学び、実技に関連した知識・技術を習得する。また、評価方法だけでなく作業療法士として必要な態度や姿勢についても必要性と意味を考え、実践に結びつけるように理解を深める。具体的には、脳卒中機能評価、知覚検査、脳神経検査、協調性検査、姿勢バランス検査、上肢機能検査、作業遂行機能検査、精神機能検査、QOL評価、職業前評価各検査について必要な知識・技術を修得する。	共同
	作業療法評価検査・測定演習	各種疾患特有の評価に必要な知識・技術の修得をはかるために、作業療法評価検査・測定論にて学んだ評価過程について検査を実践し、その結果をまとめるまでの演習を行う。疾患を想定した評価シミュレーションとフィードバックを行い各検査、測定を的確に行えるよう技術を身につける。検査、測定を実践する際は、患者役と評価者役は学生間で交替して行う。また、各疾患における評価の視点を学び、適切な評価項目を選択実施できるよう技術を身につける。	共同
	作業療法評価演習	脳神経外科疾患や神経内科疾患、整形外科疾患、精神疾患などの症例を設定し、それに対する作業療法評価を演習形式で学修する。疾患にあった評価項目の抽出や評価から得られた結果をもとに統合と解釈を行い問題点、ゴールを挙げ、作業療法の治療・訓練場面へ結び付ける考え方を修得する。また、臨床事例を示し、具体的に作業療法評価としての症例検討を行う。さらに精神科病院へ1日体験実習を行い、精神科患者との面接・行動観察を経験し、会話録を作成する。	共同

作業療法治療学	日常生活活動学	日常生活活動の意義やその評価方法について学び、評価の目的、判定、記録方法についての知識を得る。また、日常生活活動の分析を行い、心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め、活動に与える影響を学ぶ。さらに、対象者の動作や活動の特性を理解するために、健康人の日常生活動作を理解する。また、自助具、福祉用具の種類や適応となる疾患、導入時の注意点、生活環境整備などについて理解を深める。	共同
	日常生活活動演習	日常生活活動学の講義内容を踏まえた上で、日常生活動作におけるバイオメカニズムを理解する。そのため、運動学で学修した重心と支持基底面、てこの知識を動作分析に応用し、理解することから始める。また、それらの基本的な各動作を演習形式で体感し、動作分析の理解を深める。動作は健康人の基本を学び、障害者の福祉用具や日常生活活動(ADL)の具体的な指導法、介助法について学修し、介助者・対象者にとって理想的な介助法を実技を通して学修する。また、在宅における生活やケアの実際についても学修する。	
	義肢装具学	本講義では義肢・装具・スプリント、それぞれの定義、歴史、基本的な構造、種類と使用目的、適用と断端管理等の知識を修得する。特に、作業療法士として取り扱う上肢の義手においては、多様なパーツの名称、役割、調整を知り、それらのチェックアウトについて理解する。さらに、義肢装着者の日常生活における補助としての義肢の機能を理解し、義肢の機能としての限界を学び、作業療法士として支援できる範囲を学ぶ。また、義肢装具士の提供する装具と作業療法士の提供する装具の意義について学ぶ。	
	装具製作演習	本科目では、装具の制作について具体的に学修し、代表的なスプリントの作成方法を理解し、作成できることを目的とする。他者の手を借りてスプリントを製作し、自他ともに作成を確認し合えることができるようにする。疾患ごとのスプリント・自助具の目的と適応についても理解する。熱可塑性プラスチックを主とするスプリント素材、ストラップ用素材、製作道具の扱い方を実習にて学び、作業療法場で良く用いるスプリントの制作のための評価、採型、採寸からフィッティング、修正までの製作手順および仮合わせ、仕上げ、再評価までの流れを実習にて学ぶ。実際の義肢装具士からも装具の作製の機会を設け、義肢装具士の作製する装具の理解を深める。	
	リハビリテーション関連機器	人体の構造と機能を工学的観点から捉えることにより得られた結果は、作業療法における評価、治療に役立てる手法であることを学ぶ。また、個々が生活する環境を把握し、それぞれの社会における生活支援に柔軟に対応できる手法を理解する。近年重要性を増しているさまざまなリハビリテーション機器とその使用方法について紹介し、あわせてリハビリテーション機器の現状と問題点についても解説する。さらに様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた具体的方策について、その立案および提案方法を実践するため、リハビリテーションの現場で用いられている簡単なりハビリテーション機器の制作方法について理解を深める。	
	作業と心身機能	作業遂行は、人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々な変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、生活行為の動作を例示し分析を行う。作業療法治療の基礎となるテコ、関節モーメント、重心と支持基底面などの生体力学と作業の関係を示しながら講義を展開する。さらに人の行動は環境の刺激を手がかりにしており、その結果環境からさまざまな応答を受け取りながら生活している。そのため人が行動(作業)をどのように学習するのか講義する。	共同
	作業と神経生理	作業遂行は人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々な変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、随意運動の制御、運動における呼吸・循環系の役割について学修する。作業に不可欠な到達動作や把握運動を通して、運動プログラム、フィードバックと運動制御、姿勢調節などの神経生理と作業の関係を示しながら講義を展開する。最終講義では、事例を示しながら作業療法治療の実際も学ぶ。	

中枢神経系作業療法学	作業療法士が病院等で担当する対象者の多くは脳卒中や脳外傷をはじめとする中枢神経系障害を患った方である。対象者のリハビリテーションを展開する上では、これらの疾患の病態と障害像の理解にはじまり、心身機能・身体構造的側面、活動的側面、参加的側面、環境因子といった人と環境の包括的評価が重要である。そして、その後の具体的支援方法に関しては、日々進歩する医療の現状と科学的根拠を知り、それを適宜引き出す力が必要となる。本講義では、中枢神経系作業療法演習の前段階として位置づけ、中枢神経系の基本的な解剖生理の理解から始まり、作業療法が実施する評価、治療アプローチまでの知識を学修する。	共同
中枢神経系作業療法学	身体障害領域の対象疾患である神経難病疾患や神経筋疾患に対する作業療法について学修する。神経難病系障害や運神経筋疾患の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義をすすめていく。対象となる傷病は神経難病系疾患においては、パーキンソン病および脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症を選出し、神経筋疾患においては多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症を中心に講義をすすめる。	共同
中枢神経系作業療法演習	中枢神経系障害に対する作業療法では、心身機能・身体構造的側面、活動的側面、参加的側面および環境等の背景因子に基づく評価結果を理解し、論理的な思考を踏まえた支援を展開することが必要となる。本講義では、その実践的な介入方法について、シミュレーション、模擬患者等に対する支援経験、他者からのフィードバックの流れを通じて学修する。また、介入に必要な機器や補助装具等の適用と方法、環境整備に必要な知識と技能を学修する。	共同
運動器系作業療法学	作業療法治療における対象疾患である整形外科・外科系疾患の病態やそれに伴う障害について、各疾患の評価項目・評価手技の選択、目標設定、治療計画および治療実施の方法について学修する。対象となる疾患については、末梢神経損傷および脊髄損傷、関節リウマチを対象に講義をすすめていく。整形外科・外科系障害の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから、解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義を進める。	
運動器系作業療法演習	運動器系の疾患を学んだことを踏まえ、健常な四肢の運動動態を演習形式で学ぶ。演習は、各文献等の収集と模型等の作成によって、運動動態のイメージを図り理解を深める。それによって、各組織の役割とそれが欠如した場合の問題解決型学習と解決プロセス、解決技能を養成する。それを踏まえた上で、運動器系の障害の種類と鑑別技法を理解する。作業療法の適応、装具等の福祉用具の選択を学修し、作業療法で取り扱う主な疾患についてのICFに基づく障害像を理解し、作業療法支援を学ぶ。	
内部障害作業療法学	呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝系疾患、サルコペニア、がんの病態やそれに伴う障害の基礎、生活習慣病との関連について理解する。内部疾患系障害の理解のために、各疾患、障害について解剖学、生理学、運動学的な根拠を示しながら講義を展開する。疾患に起因する活動制限や参加制約を学ぶとともに、目に見えづらい障害であるが故に理解が得られにくい状態と抑うつとの関連性について学ぶ。バイタルサインとリスク管理や家族支援の重要性についても学修する。	
内部障害作業療法演習	作業療法場面で多く経験することになるCOPD、心筋梗塞、心肺機能、糖尿病などの疾患について症例を提示しながら、作業療法評価と作業療法治療技術を学習する。内部疾患は生活習慣病に起因することが多いため、運動耐容能と活動・参加との関係を理解し、疾患の発生を防ぐための1次予防から再発防止や社会復帰のための3次予防に重要となる治療プログラムの立案を体験する。また、生活行為における疾患別の工夫の方法や喀痰吸引についての実技を学ぶ。	

精神障害作業療法学	精神科作業療法において対象となる統合失調症・気分障害・神経症圏の障害・摂食障害・物質関連障害・パーソナリティ障害・てんかん・老年期障害の特性と症状を把握し、理解する。また、対象となる疾患の生活障害の評価の視点を学び、各疾患の回復過程に応じた治療や援助方法について説明・把握することができるように講義を実施する。多くの機関や職種との連携が必要な状況の中で、作業療法士は 何をすべきか（または役割）について考察を深める。	
精神障害作業療法演習	精神障害をもつ人の特徴を事例を通して理解し、評価治療技法や精神障害をもつ人の生活支援の実践について体験的に学修する。また評価及び治療過程で必要とされる情報収集、評価、解釈、活動計画立案を体験する。これらの演習・体験を踏まえ、精神障害をもつ人の生活構築のための実践的な介入に関する演習を行い、精神障害をもつ人に接するときの態度を身につける。また、治療中のリスク管理ができ、自己・急変時の対応を的確にできるようにする。	
発達障害作業療法学	小児疾患系疾患の病態や、それに伴う障害について理解し、作業療法場面において多く経験する小児疾患系疾患である脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、自閉症スペクトラム障害などを中心に小児疾患系障害の評価と作業療法治療技術について学修する。小児疾患系障害の理解のためには、人間の成長に伴う正常発達を十分に理解する必要がある。また、子どもの身体的・知的特徴や教育などの社会的背景を理解しなくてはならない。様々な要素を伴う小児疾患系障害の作業療法の実際を学ぶ。	
発達障害作業療法演習	小児疾患系障害を持つ人の特徴を事例を通して理解し、評価治療技法や小児疾患系障害をもつ人の生活支援の実践について体験的に学修する。また評価及び治療過程で必要とされる情報収集、評価、解釈、活動計画立案を体験する。これらの演習・体験を踏まえ、小児疾患系障害をもつ人の生活構築のための実践的な介入に関する演習を行い、小児疾患系障害をもつ人に接するときの態度を身につける。また、治療中のリスク管理ができ、自己・急変時の対応を的確にできるようにする。	共同
老年期障害作業療法学	超高齢社会の我が国では平均寿命と健康寿命の差で示される不健康な期間の縮小が課題とされている。特に健康寿命の延伸による当期間の縮小が重要となる。本講義では、これらの背景をもとに老年期における作業療法支援の実際と方法を学修し、さらに現在よりもより未来展望的に求められる役割にまで波及した内容を展開する。主には、フレイル、サルコペニア、転倒、認知症等の予防とケア、そして老年期障害に対する支援等であり、これらの支援における基本的知識と評価、実践技術を学び理解する。	共同
ハンドセラピー学	手外科に必要な上肢に関する関節運動や軟部組織の名称について理解を深める。手外科の代表的な疾患・障害について学修し、その手術の概要について理解する。また、それらの術前、術後の評価と訓練について学修する。疾患は骨折、屈筋腱損傷、伸筋腱損傷とし、これらの評価・訓練の方法を学ぶ。副次的な疾患の対処法として、癒着、拘縮の症状を学修し、これらの予防及び癒着・拘縮除去の方法、装具の適応について学修する。運動学、解剖学、生理学、義肢装具学の根拠を示しながら、講義を展開する。	
生活行為向上マネジメント論	生活行為向上マネジメント（MTDLP）とは、対象者の価値のある生活行為を達成するために行われる一連のマネジメントであり、現在、通所リハビリテーションにおける生活行為向上リハビリテーション実施加算にも反映されている。その中で、対象者の望む価値ある生活行為の向上に対して、作業療法士の包括的な思考能力が期待されている。本講義では、MTDLP誕生の背景と構造を理解するとともに、事例を通じたマネジメントの経験により実践的な知識と技能を学修する。	共同

地域 作業 療法 学	地域作業療法学	地域包括ケア時代の到来にともない、作業療法士がそれぞれの地域において活躍することが求められている。作業療法士は人々の大切な生活行為に焦点を当て、医学的視点をもとに支援する専門家であり、今後もますますの活躍が期待されている。本講義では、特に地域リハビリテーションに関する諸法規の変遷から地域包括ケアシステムの誕生までの背景を通して、作業療法士の役割を理解することにはじまり、介護保険下の総合事業、就労支援、認知症初期集中支援ならびに予防とケア、生涯スポーツ支援、住環境整備と自助員の提供等の実際を学修する。	共同
	地域作業療法学演習	超高齢社会の我が国において地域包括ケアシステムの構築が急がれている。その基盤とされる地域ケア会議では、住民や専門職による多職種連携、専門的視点からの助言、地域課題の発見と解決に導くマネジメントが求められている。また、総合事業や認知症初期集中支援事業等において作業療法士による介入が望まれている。本講義では、これらの実践力を身につけるため、地域ケア会議、総合事業、認知症カフェ等の模擬体験や実践を通じてその理論と技能を学修する。	共同
	生活環境学	障害を持つ人の活動範囲を広め、積極的な社会参加を促すためには、人々を取り巻く生活環境を理解し改善していくことが重要である。ここでは、人々を取り巻く生活環境の変遷やクオリティ・オブ・ライフ、経済環境や行政・制度的環境、及び物理的環境について理解を深める。更に、生活する人に適したバリアフリー環境を実現するための住宅の構造や、住宅改修に関する基礎的な知識を身に付け、各種障害に合った、住みやすく、また、豊かな生活を送るための方法や工夫について学修する。	共同
	レクリエーション実践	レクリエーションの枠組み、範囲と種類、計画に必要な分類を学修する。レクリエーション実施者の課題を提示し、活発で喜ばれるレクリエーションとそうではないレクリエーションの違いを理解することで、解決策を学ぶ。集団と場、集団の利用方法、自己実現理論を理解した上で、グループ単位でレクリエーション計画を立案し体験する。体験後は実施の振り返りを行い、報告書を作成するとともにグループ内フィードバックを実施する。	共同
	多職種連携論	現在の医療・福祉では、個々の対象者に対する専門職業人の協働と連携が求められている。個々の対象者の健康科学の理念を学び、多職種の連携の理念と実践について理解を深め、高度に複雑化した保健・医療・福祉のシステムを学修する。また、医療から在宅、地域医療における専門職の活用を学ぶ。更に、多職種の本質を知り、チームにおけるそれぞれの役割と連携について学修する。多職種と実際に触れ合う機会を設け、その理解を深める。	共同
臨床 実習	臨床実習（基礎）	医療施設、福祉施設の見学を通して社会や医療の中における作業療法士の役割と責任を全体的に理解する。そのために、実習に臨むのに必要な基本的技能を、OSCEを通して技能を修得する。また、本実習以降の専門的な学修を通じての知識修得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。本実習を通して、実習施設内での作業療法科の位置づけ、他職種との連携業務の流れ、作業療法の業務内容と、対象者の疾患・障がいからの必要な基本的知識・技術・態度を理解する。また作業療法士として必要な資質について理解し、対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取る能力を身につける。	共同
	臨床実習（地域）	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの見学等を通じて、地域作業療法における役割と業務の実際を学び、学内での講義で学んだ知識と結びつける。本実習に臨むのに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得し、実習に取り組む。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割と、地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性を理解する。対象者との良好なコミュニケーションを取ることができ、ニード等の聴取ができる能力を身につける。	共同

	臨床実習（評価）	作業療法評価過程を実習指導者の下でこれを実施し、そのために必要な記録・報告ができるようにすることを目的とする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動が取れるようになることを実地に学修する。本実習に臨むのに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得し、実習に取り組む。施設実習の後、体験した作業療法評価過程を再検討し、臨床実習、に結び付ける基礎的な作業療法評価能力を身につける。	共同
	臨床実習（応用）	作業療法についての知識・技能の学修の総決算として、実習指導者の下でこれを応用し、評価・治療計画・治療という一連の作業療法の過程を実施する。そのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職としての責任ある態度・行動が取れるようになることを実地に学修する。本実習に臨むのに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得し、実習に取り組む。施設実習後のセミナーにおいて、実習で体験した内容をまとめ、考察し、プレゼンテーションを行い、実習で得た知識や技能を確実に修得する。	共同
	臨床実習（総合）	評価・治療のまとめとして症例に応じた適切な検査・測定を選択と問題点の抽出をもとに治療立案し、それに基づいた治療の実施が出来る能力を身につける。また、治療中のリスク管理と、事故・急変時の対応が的確に実施出来るようにする。本実習に臨む際に必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得し、実習に取り組む。施設実習後のセミナーにおいて、実習で体験した内容をまとめ、考察し、プレゼンテーションを行い、実習で得た知識や技能を確実に修得する。	共同
総 合 作 療 法 学	実践力演習	リハビリテーション専門職は、対象者とその家族、他の医療福祉職との良好な関係を築くことが重要である。そのためには、礼節や共通知識・技能・態度はもとより、自身の目指す療法士や各医療専門職の役割を学ぶ必要がある。また、リハビリテーション専門職としての自主性、判断力は必要不可欠である。本科目では、アクティブラーニングを主体とし、礼節とコミュニケーション技能、医療福祉職の共通知識と技能、医療福祉職の役割を学修することで基礎的な実践力の養成をはかる。	
	実践力演習	作業療法士の領域は医療にとどまらず、地域での健康支援、障害者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、防災・災害リハビリテーション等と多岐にわたる。したがって、作業療法士としてこれらの領域で活躍するための知識・技能・態度の修得は必要不可欠である。本講義では、アクティブラーニングを通じて、複数の領域における作業療法士の役割、支援に向けた課題と整理、支援計画と技能を学修することで、様々な領域において必要となる実践力を養成する。	
	実践力演習	作業療法士が対象者の自己実現や社会参加を実現させるためには、福祉機器や自助具等の種類と機能についての知識と、対象者の心身機能・身体構造面、活動面、参加面、背景因子やニーズをマッチングする技能が必要である。本科目では、アクティブラーニングおよびPBLを通じて、対象者のニーズの把握やICFに基づいて問題点と利点を整理し、自己実現や社会参加を実現させるために適合する福祉機器や自助具の選択および提供に向けた基礎的な知識・技能を学修する。これらを通じて、環境要因を駆使した支援に結びつく実践力を養成する。	
	総合演習	本演習は、各講義や実習などで学んだ知識を整理、発展させ、卒業後の作業療法士としての診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。具体的には複数の教員によるゼミナール形式で文献研究や実験などの調査を通し、これまでに学修した内容を担当教員から提供された情報の解釈を加えて、一人の作業療法の専門職として活躍できるように、準備を行う。	

		卒業研究	<p>作業療法研究の必要性について知り、研究の意義と目的、研究倫理を学ぶ。そして、実際に研究を実施するのにあたり、研究対象を見つけることから開始し、その対象における研究疑問の洗練、研究対象の背景の探求、文献整理、研究手法の選択について理解を深める。更に、研究デザインと研究計画を立て、その研究テーマに沿って研究を進めることで臨床に直結する学生の創造性を鍛錬していく。ゼミ指導教員の指導のもとで、文献検索、研究計画の策定から実験や調査の実施、データ処理、論文作成、発表までの一連のプロセスを進め、研究論文としてまとめる。</p>	
--	--	------	---	--

学校法人豊田学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員
		0		0
計		0	-	0

岐阜保健大学	看護学部 看護学科	80	-	320
計		80	-	320

岐阜保健大学 短期大学部	リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	90 60 30	-	270 180 90
計		0	-	0

岐阜保健大学 医療専門学校	はり・きゅう科 柔道整復科	30 30	-	90 90
計		60	-	180

令和3年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
岐阜保健大学大学院	看護学研究科看護学専攻修士課程	13		26	大学院新設
計		13	-	26	

岐阜保健大学	看護学部 看護学科	80	-	320	学部新設
	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	90 60 30	-	360 240 120	
計		170	-	680	

		0 0 0	-	0 0 0	令和3年4月学生募集停止
計		0	-	0	

岐阜保健大学 医療専門学校	はり・きゅう科 柔道整復科	30 30	-	90 90
計		60	-	180